

え

る

の

あ

目次

報告 女性プラザ祭2020講演会 …… 1
女性プラザ祭2020レポート …… 2・3

イベント紹介 …… 2・3
インフォメーション …… 4

報告 女性プラザ祭2020講演会

『障がいがあっても輝いていきたい
～車いす建築士目線で見える社会～』



ユニバーサルデザイン
有限会社 環工房
代表取締役 牧野 准子さん

38歳の時、インテリアデザインの会社を設立して段々軌道に乗ってきたと思っていたら病気を発症してしまいました。北海道インテリアコーディネーター協会の会長をしていた時でした。できないことがどんどん増えていき落ち込みました。

小学校の福祉授業に行くと、ほとんどの子どもが障がいのある人のことを可愛そうと言いますが、私はそうは思いません。命の重さは同じです。みんな与えられた環境の中で精一杯生きています。知らないから差別や偏見が生まれるのです。特別扱いしなくていいのです。まずは知っていただきたい。できないことを補ってもらえるサポートや理解、仕組みが必要です。それが無いのに共生社会はあり得ません。

難病を発症して落ち込みました。そこから立ち直るきっかけになったことの1つは、住環境を整えたこと。トイレの手すりが無かった頃は一人でトイレに行くこともできず、留守番もできませんでした。だめな自分になってしまったような気がしました。洗濯機もお風呂の横にあるのですが、浴室乾燥機をつけることでいすに座ったまま洗濯機から洗濯物を取り出して干すことがで

きるようになり、できる家事が1つ増えました。住環境を整えることで、できることが増えて生きる希望が持てた一例です。

障がい者差別解消法をご存じですか？障がいを理由とする差別をしないようにしようという法律です。例えば車いすで段差のあるお店に入りたいと思った時に、段差があるから入れませんではなく、手伝ってお店に入るように合理的配慮をしようというものです。配慮することでバリアが取り除かれることがあります。

知らないでいることがバリアになっていることがたくさんあります。歩いている人には気にならない坂でも、手動の車いすでは一人で上がれないことも。そんな時誰かに手伝ってもらおうと助かります。「何かお手伝いしますか？」とか「押ししましょうか？」と声を掛けてもらえるとすごく嬉しいです。でも人によっては手伝うと怒る人もいますので、必ずどうして欲しいかを聞いてから手伝ってください。

車いす対応のトイレが広いのも、便器への移乗や方向転換をするのにそれだけのスペースが必要だからです。そこが空いていなければずっと待っているか、ほかの場所を探さなければいけません。誰でも使えると書いてある場合は誰が使ってもいいのですが、そこしか使えない人がいるということを覚えていてほしいです。車いす用の駐車場も同じく空いていないと大変困り、悲しくなります。

障がいのあるなしに関係なく、人それぞれでできることできないこと、得意なこと苦手なことがありますよね。誰かのためにしている配慮が、いつか誰もが暮らしやすい優しい環境につながるのだと信じています。ですから他人事ではなく自分事としてぜひ関わって、知って、理解していただきたいと思います。



池本 美紀さん
(民宿きのえ荘 女将)

神恵内村で生まれ育つ。地元出身の夫と結婚し、2人で民宿を起業。



鹿又 百合子さん
(id.DESIGN-OFFICE 代表)

北見市で広告物のデザイン会社を起業し9年目。夫が会社を退職し、夫婦で歩みはじめて、起業は家業に。



檜山 由美さん
(書家・由芽/松山農場)

札幌で働いていた時に当別町在住の夫と出会って農家に嫁ぎ、今は当別町で米農家と書家を兼業。

アクションHIROBA「地域でアクション〜彼女たちのライフワーク2」

●ライフワークストーリーについて

池本: 神恵内村は、積丹半島を一周できる国道が開通するまでは、キャンプ場に人が沢山いて、旅館や民宿も数多くありました。今では旅館も無くなり、観光客は神恵内村を素通りしてしまう方が多くなったので、昔のように沢山の人の村に来て欲しいという気持ちと、いろんな良いタイミングが重なり民宿を起業しました。名前の由来は、かつて民宿を営んでいた祖母の名前を取って「きのえ荘」です。そして、地元の仲間とともに村の衰退を止めようと「神恵内村魅力創造研究会」という会を立ち上げました。また、村の中だけでは限界があると感じ、後志管内の女性たちにも声をかけて「しりべし女子会」という会を作って活動しています。

檜山: 元々農業に興味があったわけではなかったのですが、最初はすごく戸惑いました。周囲の人に「よく農家に嫁いだね」と言われましたが、自分自身もまさか農家の嫁になるとは思っていませんでした。今では、家業である農業をいろいろ手伝えるようになりましたが、その中で、私個人でも何かできることはないかな?と考える時に、小さい頃から習っていた書道を思い出しました。インテリア装書というちょっと変わった書道の作品を作る教室に出会い、家業と自分のやりたいことを組み合わせ、アートとして飾れる書道作品を創作する活動に繋がっています。

鹿又: 小さい頃から絵を描くのが好きだったこともあり、

デザインの仕事がしたくて印刷会社に就職しました。結婚を機に退職しますが、プライベートの充実を望んでいく一方で、やっぱり働きたい!という気持ちが強くなり、在宅ワークを5年間くらいやりました。その後、再び会社勤めをしたのち、37歳で今の会社を起業します。私が起業した時、女性の起業について相談に行ける場所がなかったので、自分でやろうと決意し、今では起業支援などの活動も行っています。

●壁と乗り越え方について

鹿又: 私の場合、壁というのは子育てとの両立でした。どう乗り越えてきたかと言えば、独立する時に、子供たちや夫、両親に「自分はこれがやりたい」「そうするとこれできません」「協力して欲しい」と素直に話しました。いろいろなことがあったけれど、素直に話してからは少しずつ上手くいくようになりました。

檜山: 家事や育児、家業のバランスが大変ですね。夫には話さなくても伝わっていると思ってしまっているのですが、皆で乗り越えていくために、きちんと話すことはすごく大事だと思います。コミュニケーションは必要不可欠ですね。

池本: 私はいつも事後報告です。夫にだけは何か言いくいです。朝と夜の時間帯は常に顔を合わせることで、お客様への対応などで考え方が違ったりした時に言い合いになることもあるので、いかに日中お互い会わないで過ごすかということにエネルギーを

使っています(笑)。チェックアウトからチェックインまでの時間だけは、お互い自分たちだけの時間として過ごすことが我が家では大事なポイントです。

鹿又: 自分たちの時間っていうのは大事!!リフレッシュタイムは必要ですね。

●コロナ禍での気づき

檜山: お米作りに関しては、直接個人のお客様に販売しているので、感染対策を十分に配慮することを徹底していました。ステイホームによって、家で食事される方が多くなり、皆さんにお米を食べてもらえることは嬉しく感じました。私自身もお家時間が増えたので、自分の作品作りを考える時間に充てることができ、有意義に過ごせました。

池本: 宿泊業はどうしてもお客様優先になってしまうので、子供たちと過ごす時間がほとんど取れません。日々の食事ですら別々です。コロナの影響は厳しいものがありましたが、子供たちと朝も夜も一緒にご飯を食べるという当たり前のことができました。コロナ禍がなければ一緒に遊んだりすることもできなかったのも、自粛期間を家族と一緒に過ごせたのは良かったです。

鹿又: 私は、自分自身の中の価値観がすごく変わりました。今まで寝食を削って必死に働いていたけれど、自分で自分を忙しいと思い込んでいたことに気づきました。仕事に関することはどんどん詰め込めるのに、プライベートの予定は入れられなかったのが、ステイホームになった時、私が忙しいと思っていただけで、あれもこれもできたんだと気づきました。家族とウッドデッキでアウトドアをしたり、庭いじりをしたり、今まで無理だと思っていたことが、これからは自分もできるんだと気づけたことは幸せだと感じます。

●これからについて

池本: これまで村の子供たちには、神恵内村で育ったことに誇りを持って欲しいと伝えてきましたが、神恵内村で

核のゴミの文献調査受入れ問題が持ち上がり、この先不安に思うこともあります。ですが、元気に明るく暮らしていきたいです。地域おこしの成果は目に見えて分かるものでもないけれど、やらなければならないと思っています。今は、郷土料理でもあるサクラマスのカレーライスのレトルト開発や缶詰など、「持ち歩けるお土産」を増やしていきたいです。

檜山: 私は、「アート」に魅力を感じています。忙しい日々の中で、少しでも潤いを感じてもらうためにアートは大事だと思っています。当別町には、結構アーティストが多くいますが、それぞれで活動しているので繋がる場所がありませんでした。最近、当別町の商店街とアートクリエイターの両方を盛り上げていこうというコンセプトの会社ができたので、他のアーティストたちに繋げていくという活動のお手伝いができたらと思っています。そして、当別町をアートで盛り上げていきたいです。

鹿又: 起業する時に、「デザインでお客様の仕事や生活のお手伝いをする」「デザインをする楽しさを伝える」「人生をデザインするお手伝いをする」ということを決めていました。現在、毎週1回、中学校で美術の授業をしていますが、今の子供たちって将来の夢とかないんですね。なので、目の前に立つ大人が楽しくして、見ているとワクワクする、と子供たちに感じてもらうことが明るい未来を想像する一歩になるのかなと思うので、そういう幸せを与えられる人になりたいです。常に明るく笑顔で、ワイワイと、仕事も楽しく、人と話す時も楽しく、寝る時ですら楽しく、生活の全てで楽しくいたいと思っています。



イベント紹介

プラザ祭期間中は様々なイベントを開催しました。その一部を写真とともにご紹介します。

オープニングコンサート



コロナを吹き飛ばすような圧巻の歌声を披露してくれました🎵

ハピフェス2020



かでるホールで初のステージイベント! 演者のパフォーマンスに目が釘付け👁️

ミニコンサート



命の大切さ、生きるということ。心に染み入る歌と朗読に会場が沸きました。

プラザぎやらりい



女性プラザや他団体の活動についてパネルやPR動画を紹介。

オトナの発表会



独創的かつ精巧な作品群が来場者の目を楽しませてくれました。

女性セミナー



主催: 北海道女性団体連絡協議会

憲法カフェ



主催: 北海道ジェンダー研究会

インフォメーション

開催報告 映画「ママをやめてもいいですか!?」 札幌自主上映会&パパ育休勉強会

共感と感動、そして笑いが詰まった、家族の物語。
思い込みや不安からくる、戸惑い、悲しさ、辛さ…。
そんな生の声をたくさん聞いてきた助産師有志が実行委員となって上映会を開催しました。
参加者からは、「より多くの方たちに観てもらえたら、孤独や悩みの中にいる母親に周りの手が差し伸べられる、生きやすい世の中になる、ということを感じた映画でした」等のご感想をいただきました。
上映会の後には、今回の上映会にご協力をいただいた「パパ育休プロジェクト※」による勉強会も開催。“男性育休に関する最新情報、育休取得したパパの体験談、助産師さんとの座談会”と充実した内容を学ぶ時間となりました。



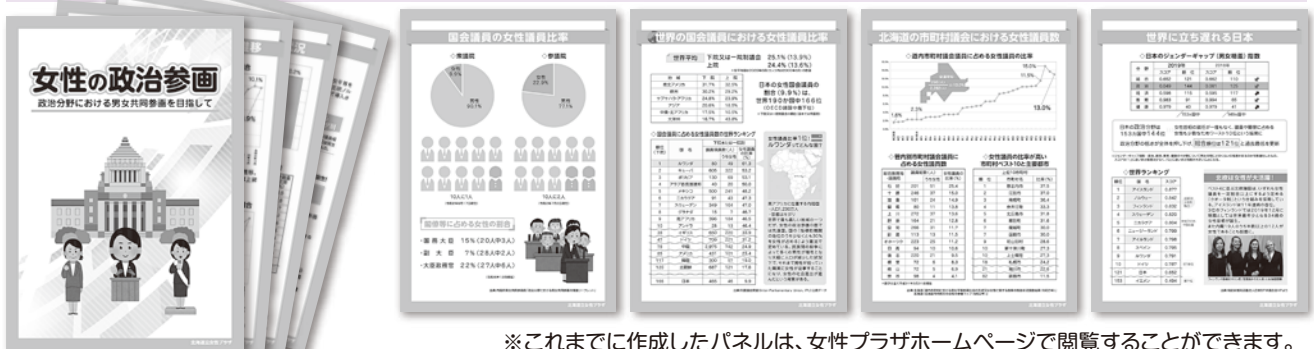
「ママやめ上映会」受付はパパ！

※「父親の子育てとワーク・ライフ・バランスが実現される社会を創る」を目的に活動中。素敵なお父さん達の集まりです。
詳細は、<https://hokkaido-papa.net/>

★3月には、北海道主催・女性プラザ共催にて「男性の育休取得を促進するシンポジウム」も予定しております。皆さまどうぞ楽しみに！

パネルの貸出しについて

当プラザでは、所蔵するパネルを無料で貸し出しております。
令和2年度に作成した新しいパネルのテーマは「女性の政治参画」です。
各自治体や地域での啓発活動に是非お役立て下さい。



(寸法/各:縦73.5cm×横52.5cm) 計8枚

※これまでに作成したパネルは、女性プラザホームページで閲覧することができます。
申し込み方法など詳細についてはお問い合わせ下さい。

情報提供フロアよりピックアップ書籍 令和2年度新着図書から(4冊)



「男女格差後進国」の衝撃
無意識のジェンダー・バイアスを克服する
治部れんげ 著
小学館

LGBTとハラスメント
神谷悠一、松岡宗嗣 著
集英社



医者も親も気づかない 女子の発達障害
一家庭・職場でどう対応すればいいかー
岩波明 著
青春出版社

メイドの手帖
最低賃金でトイレを掃除し「書くこと」で
自らを救ったシングルマザーの物語
ステファニー・ランド 著 村井理子 訳
双葉社



Facebookを開設しています!

女性プラザが実施しているイベントの告知や開催報告
などを逐次お届けしております。
HPと併せてこちらも是非ご覧ください ☺



- 「えるのす」「道立女性プラザ」に対するご意見、ご感想、ご要望などをお寄せください。
- 「えるのす」は女性(Lady)の頭文字と、北(North)の造語です。

発行/北海道立女性プラザ(指定管理者:公益財団法人北海道女性協会)

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7 6階 ☎(011) 251-6329・6349

【ホームページアドレス】<https://l-north.jp/>

(休館日:日曜・祝日・年末年始) (開館時間:月~金 9:00~21:00、土 9:00~17:00) *お問い合わせは 9:00~17:00 お願いします。